

# 常葉学園短期大学附属図書館之山文庫における 2011年学生利用者アンケートの結果と考察

大場 博幸\*・望月 かおり\*\*

---

## 目次

---

1. はじめに
  2. 調査の概要
  3. 結果と考察
    - 3.1. 利用者の属性・利用目的
    - 3.2. 蔵書構成
    - 3.3. 資料の配置
    - 3.4. サービス
    - 3.5. アメニティ
  4. 結論
- 参考文献, 附録 (調査票と回答用紙)
- 

## 1. はじめに

常葉学園短期大学は静岡県静岡市に位置し、日本語日本文学科、英語英文科、保育科、音楽科の四つの学科を持っている。2011年度の在籍者は812人であった。之山文庫はその附属図書館の名称である。之山文庫の沿革については、前回アンケートの報告書(大場・望月2009)に記したので繰り返さない。

2011年9月、常葉学園短期大学附属図書館之山文庫は、本学学生の当館に対する利用度や、蔵書や設備などにおける問題点を把握するために、アンケート調査を行った。この報告書は、その調査結果について説明し、今後の課題を記すものである。

## 2. 調査の概要

之山文庫による図書館利用調査アンケートは、2011年9月13日、本科・専攻科の全学年全学生を対象に実施された(有効回答数:705, 有効回答率87% 在籍者812)。アンケート項目として、当館の利用頻度と利用目的、蔵書構成・資料の配置の適切さ、コンピュータや特別教室などの館内設備の利用経験、アメニティ、司書の対応、その他要望等について回答を求めた(実際のアンケート用紙は付録とした)。

2008年度から設備の配置換えや変更を行ってきたため、今回の調査では設備やアメニティについて尋ねる項目を多くしている。その最大のものは、2011年度半ばに行われた、常葉学園傘下の大学図書館全体に共通するOPACの変更である。ただし、アンケート調査後の変更であったため、これに関する質問は設けていない。以下に、2008年から調査以前までの変更点を列挙しよう。

第一に、2008年から2009年にかけてセキュリティシステムを導入し、入館ゲートも身分証

---

\*常葉学園短期大学講師、\*\*常葉学園短期大学

明が必要な方式に変更した。

第二に、敷地南側にある整備されていなかった屋外スペースを舗装・植樹し、ベンチやテーブルを置いて、屋外の開放空間とした。この空間は、学生による名称コンテストによって、“ひだまりガーデン”と名付けられた。

第三に、本館二階にあった視聴覚室の機材を移動して、グループ学習などに使える、談話しながら使用できる部屋に変更した。これは前館長によって“きらり☆ルーム”と名付けられ、教室としても利用されている。

第四に、本館二階にあった視聴覚機材やCD、楽譜は、電動書庫のある別館に移動した。この別館は本学の東側にある校舎の一階部分であり、本館と連絡通路でつながっている。電動書庫のあるスペースは別館の三分の一を面積を占め、あとは書架や机などが配置されていた。そこに、音楽科の利用が多いと思われる資料を集中させたのである。

第五に、2010年度に机・椅子・カーペットを新調し、館内照明の照度を上げ、書架を増やした。

第六に、大幅な書架移動も行った。新書・文庫を別置し、別館の電動書庫内に保管されていたNDC4類・5類・6類の書籍を、他の分類番号の書籍と同じ本館二階に配架した。

第七に、インターネット検索やレポート作成に使用できるコンピュータを館内に20台設置した。これは、校舎内にあったコンピュータ自習室の管理責任が明瞭でなかったため、2011年4月に同室が廃止されたためである。この結果、コンピュータの管理は図書館に任せられ、よりメディアセンターとしての性格を強めた。

したがってアンケートの一部は、上記のような新設や変更について関心を向けるものになっている。

なお、之山文庫では、2005年と2008年にも同様の調査を行っている（常葉学園短期大学附属図書館，2006/大場博幸，望月かおり，2009）。これら前回と前々回の調査結果については、第3章において経年的変化を見るために、調査項目が重なる箇所を採りあげる。

また、前回と前々回と同様、この調査は学生のみを対象とし、教職員に対してはアンケートを行っていない。

### 3. 結果と考察

続いてアンケートの結果と考察を記す。トピック別に各節をまとめたが、Q19の回答については、該当する節に回答文を表示することとする。Q19が、図書館に対する要望を自由記述方式で書くよう求めた項目であるためである（Q19質問文：全体的な希望・要望があったら書いてください）。

#### 3.1. 利用頻度と利用目的

Q1では図書館利用の頻度を、Q2では利用目的を尋ねた。この二項目は、2005年・2008年のデータと比較されている。以下に結果を示す。

Q1. 図書館を利用したことがありますか

	2005	2008	2011
週に1回以上	27%	39%	50%
月に1回程度	36%	30%	33%
ほとんどない・ない	37%	31%	17%

Q2. 主にどのような目的で利用しますか（複数回答可）

	2005	2008	2011
課題や研究のための資料収集	37%	30%	34%
書籍・楽譜・雑誌・新聞等の閲覧や、CD・DVD等の視聴のため	20%	20%	21%
試験勉強	11%	15%	14%
空き時間の利用	23%	22%	21%
コピー	8%	12%	9%

前回・前々回の調査結果と比較すると、2011年には週一回以上の利用頻度の構成比が大きく上昇し、ほとんど利用しないという回答の構成比が低下していることがわかる（Q1）。その理由はおそらく、2011年度からのコンピュータ設置にあると推測される。学生が自由に利用できるコンピュータが図書館にしかないため、通常図書館を利用してこなかった層も、レポート作成などの作業のために図書館に頼らざるをえないのである。

しかしながら、Q2の結果からは、図書館利用目的に対するコンピュータの影響をはっきりうかがうことはできない。前回・前々回調査との連続性を保つためにQ2の質問項目は変更していない。そのため、冊子体資料の利用と視聴覚機器やコンピュータの利用を分離して抽出できないからである。結果から推測すると、増加した来館者の利用目的は、それがたとえコンピュータ利用だったとしても、資料収集や閲覧などに分散しているようである。コンピュータ端末は、さまざまな目的に用いられているものと思われる。

### 3.2. 蔵書構成

蔵書に関して尋ねた項目（Q3, 4, 5.）の結果を示す。Q3とQ4では、学習・研究用資料や教養書などが十分あるかどうか、Q5ではどのような資料の所蔵を望んでいるのかについて尋ねた。

Q3. 蔵書について。学習・研究に必要な資料が、本学園に所蔵されていますか？

	2008	2011
はい	38%	49%
いいえ	14%	10%
よくわからない	48%	42%
無回答	0%	0%

Q4. 蔵書について。教養を高めるのに必要な資料が、本学図書館に所蔵されていますか？

	2008	2011
はい	38%	43%
いいえ	6%	6%
よくわからない	56%	51%
無回答	0%	0%

Q3「学習・研究に必要な資料」に関しては、前回調査と比べると、肯定的な評価が増えた。しかしながら、まだ「いいえ」と答える層もまだ一割存在し、学習ニーズに応える選書努力が必要である。同様に、Q4「教養を高める書籍」に関して、肯定的な評価が5ポイント増えている。しかしながらQ3とQ4のいずれの結果も、「よくわからない」という回答の比率が高く、図書館利用の不十分さからくる蔵書の理解の程度をうかがわせるものとなっている。

肯定的な評価が増加した理由としては、講義における教員の指導や学生の来館数の増加に応じて、一部の学生の蔵書に対する認知が高まったという可能性が考えられる。Q3とQ4のいずれも、前回調査と比べたときの「よくわからない」の低下分が、肯定的評価の増加分に対応しているように見えるからである。

Q5. 下に挙げる定義の資料のうち、本学図書館で所蔵してほしいと思うものは何ですか？

	2008	2011
授業と関連する分野の入門用の著作・雑誌または視聴覚資料(新書など)	270	268
授業と関連する分野の研究用の著作・雑誌または視聴覚資料(専門書など)	380	354
授業とは直接関連しない、一般教養を高める著作・雑誌または視聴覚資料(資格検定本など)	240	240
授業とは直接関連しない、別の分野の専門的著作・雑誌または視聴覚資料(学科に関係しない専門書など)	183	153
上記以外	64	60
無回答	17	17
合計	1,154	1,092

さらにQ5で所蔵してほしい資料を尋ねた。複数回答可の設問であるため、その結果を実数で示す。前回調査と同様に、授業と関連する分野の“研究用”の書籍・雑誌・視聴覚資料がもっとも求められていることがわかる。

2011年と2008年では選書の方法に小幅な変更がある。もっとも予算が充てられている、教員による学内の選書については、2008年と2011年ではシステムの変更がない。しかしながら、図書館予算で購入する資料に関しては、新書や文庫などの比率を高めた。また、ボランティア学生による選書を2009年から毎年、少額ながら実施している。このように、学生の興味を引きそうな、かつ手に取りやすい書籍を多く所蔵する努力を続けてきた。

こうした変更の影響について、この調査結果からはうかがい知ることができない。しかしながら、上のような対応では、「授業と関連する分野の入門用」の資料または「授業とは直接関連しない一般教養を高める」資料を収集することはできても、「授業と関連する分野の研究用」の資料の収集には限界があると推測される。後者のニーズに対応する資料選択の方法を再考する必要があるだろう。

Q6では、学生が当館に所蔵を希望する書籍・雑誌・CD・DVDの具体名を記すよう求めた(Q6質問文：図書館に所蔵してほしい書籍、雑誌、CD、DVDがあったら、具体的に書いてください)。

数件の要望があったのが、ジブリ作品やディズニー作品などのDVDである。これらは幼児教育または保育に必要な資料として解釈できる。これらは2011年度末に図書館予算でかな

りの点数を購入した。

また、具体的なタイトル名は挙げられていないが、「絵本」という要望も多かった。保育科の実習で使用されるため、絵本はかなりの点数を所蔵しているものの、新刊を十分補充できていないきらいがある。資料選択で一般書籍を優先する傾向があるため、絵本が後回しになりがちなためである。絵本をどう充実させてゆくかは今後の課題としたい。

その他、音楽科の学生から楽譜やCDの要望が多く出された。音楽科と相談しながら購入を検討することとする。

### 3.3. 資料の配置

書架へのアクセス（Q9）について尋ねた項目について記す。

Q9.（実際に資料を探す時に）資料の配置はわかりやすいですか。

	2008	2011
わかりやすい	40%	41%
わかりにくい	35%	32%
まともに探したことがないので評価できない	—	24%

配架場所のわかりにくさに対する回答は、前回調査と比べてほとんど改善されていない。前回調査の報告書では以下の四つの問題点を指摘した（大場・望月 2009）。

- ① 目録と配架場所の不一致（目録で表示されている資料の紛失・不正確な配架等）
- ② 一般図書の配架位置が分散していること（自然科学分野が本館とは別の別館電動書架内にある）
- ③ 楽譜について目録表示とラベル表示が一致しない（現物には楽譜用の特別な記号を用いたラベルを貼っているが、目録の表示は通常のものである）
- ④ 学生側が図書館の配架方法を知らない、または目録記述から資料の状態（貸出中など）を読み取ることができない。

①については2008年度中の目録整備と蔵書点検によって、②については2009年度中に自然科学系書籍を他の一般書籍と同様にNDC順に配架することによって対処した。③には音楽資料に対する図書館員の知識の問題もあり、十分な対応ができていない。④については、2009年度から学生に対する図書館利用教育によって対応している。しかし、十分理解していない学生がいるのかもしれない。

①②に関しては改善されたはずなのに、「配架がわかりやすい」とする答えが増加しないことについてはさらなる検討が必要である。ラベルが示す位置に書籍が戻っていない可能性、新書・文庫などが別置されていることによる混乱などの理由が考えられる。

### 3.4. サービス

続いてサービスに関する項目を検討する。

Q7とQ8では、閲覧・貸出・コピー以外のサービス利用について尋ねた。回答者の9割が他のサービスを利用したことはないということが、Q7の結果からわかる。Q8にあるようなサービスを知らないか、または知っていても必要としていないということだろう。

Q8の詳細を見ると、リクエストの件数が減り、雑誌記事検索の件数が増えている。後者

に関して、当図書館では、館内のコンピュータのみでログインするようなデータベースは購入しておらず、インターネット接続があればどのような端末でも可能であるような検索機会を提供しているにすぎない。したがって、“館内に保管されている雑誌のバックナンバーを探した”というのが実際の内容だろう。

前者のリクエストが減った理由についてはよくわからない。図書館蔵書に満足しているのか、またはリクエストを出しても、学生が思いつくような軽読書用の読み物を購入しないため、学生側があきらめてしまったかのどちらかだろう。

Q7. 資料の閲覧・貸出・コピー以外のサービスを利用したことがありますか。

	2008	2011
ある	9%	9%
ない	90%	90%
無回答	1%	1%

Q8. (Q7で「ある」と回答をした人は) どのようなサービスを利用しましたか(複数回答・可)。

	2008	2011
貸出中の資料の予約	41	43
資料の購入希望(リクエスト)	38	23
雑誌記事(論文)検索	25	43
他の図書館からの資料の取寄せ(文献複写・資料借受)	17	16
他の図書館を利用する際の紹介状の発行	3	5
合計	124	130

Q17. 司書の対応について

	2005	2008	2011
良い	46%	57%	26%
普通	37%	40%	65%
悪い	11%	1%	8%
無回答	5%	2%	1%

司書の対応については、前回・前々回と比べて「良い」という評価が激減している(Q17)。しかし、その減少分に対して、「悪い」という評価は微増しただけで、大半は「普通」という評価に入っている。その理由を尋ねた自由記述の項目(Q18)の回答からは、“優しい・親切”という評価と、“無愛想・冷たい”という記述の二つに分裂している。職員によって対応の印象が異なっているという可能性がある。ただし2008年と2011年では職員が一部入れ替わっており、前回調査とは評価の対象となった司書が異なっている。また2012年度にも職員の異動があった。

ここでは、さらにQ19における図書館に対するその他要望の自由記述欄のコメントも加える。まず、「勉強するスペースがもっとほしい」というコメントがあった。コンピュータの設置で一階閲覧室が無くなってしまったこともあり、ノートを広げて学習するスペースは減っている。そのほか、特定の資料の所蔵や、配架をわかりやすくすること、貸出期間の延長などの要望があった。

### 3.5. アメニティ

最後に、第2章で確認した図書館の変更点に関して、特に設備・アメニティに関連する項目の結果を見る。その利用状況と理由（Q10,11）、混雑度（Q12）、静寂度（Q13）、照明（Q14）、椅子や机（Q15）について尋ねている。

なお下記の表において、Q10の結果に該当する「利用したことが無い」で示した百分率は、有効回答数（705）中に占める割合である。一方、Q11の結果に該当する「未使用の理由」は実数となっている。

Q10の結果からは、学習用のコンピュータを使ったことの無い学生が約3割であるのに対して、目録検索用端末や視聴覚機器における未使用者は約5割、きらりルームでは約6割、ひだまりガーデンに至っては約8割に及んでいることがわかる。未使用の理由としては、どの設備においても未使用者の半数は「興味・関心がない」からとしている。この結果を妥当とするべきか、それとも改善を考えるべきかは今後の検討課題である。

Q10. 次の図書館内設備・施設のうち、前記中に一度も利用したことのないものを選択して（複数回答可）、該当する番号の解答欄に○をつけてください。

Q11. Q10で回答をした場合のみ質問します。利用しない理由はなぜですか。項目毎に以下の回答から選んでお答えください。

	利用したことが無い	未使用の理由		
		それがあることを知らない	利用の仕方がわからない	興味・関心がない
学習用コンピュータ	29%	39	49	100
目録検索用コンピュータ	48%	76	95	148
視聴覚機器	55%	55	112	194
きらりルーム(二階研修室)	61%	59	119	217
ひだまりガーデン(南側の屋外空間)	83%	63	101	375

Q12, Q13, Q14, Q15からは、9割前後の学生にとって図書館のアメニティが特に大きな不満をもたらしていないことがわかる。しかし、混雑度（Q12）と静寂度（Q13）に関しては一割程度の不満がある。スペースの問題があるために、混雑の解消は難しい。しかし、静寂はコントロールできる要素である。静けさを保つことができるよう努力してゆく必要があるだろう。

Q12. 下記のうち、普段の図書館の利用者の数に関してあてはまるものを選択してください。

人が多すぎる	10%
ふつう	87%
人が少なすぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)	2%

Q13. 下記のうち、普段の図書館の静寂に関してあてはまるものを選択してください。

うるさい・騒がしい	11%
ふつう	86%
静か過ぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)	2%

Q14. 下記のうち、普段の図書館の照明に関してあてはまるものを選択してください。

暗い	3%
ふつう	96%
明るすぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)	0%

Q15. 下記のうち、普段の図書館の机と椅子の状態に関してあてはまるものを選択してください。

机・椅子の状態が悪い、または汚い	5%
ふつう	96%
机・椅子の状態は心地よすぎる、綺麗すぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)	0%

#### 4. 結論

前回調査からいくつかの改善を行ってきたが、数値が大幅に改善された項目は少ない。Q1の利用頻度とQ3の授業または研究用書籍に対する満足度の二つが、数値の大きな上昇が見られた例外である。前回からの数値の変化が小さかった項目では「資料の配置 (Q9)」が、良いと評価する回答者の割合が減った項目では「司書の対応 (Q17)」が、今後に検討すべき課題としてある。

一方、今回のアンケートでアメニティに関して初めて尋ねたが、静寂度を高める必要があるものの、おおむね問題はなかった。2008年度以降の設備投資に意義があったことがわかる。

#### 参考文献

- 大場博幸, 望月かおり (2009) “常葉学園短期大学附属図書館之山文庫における2008年学生利用者アンケートの結果と考察”『常葉学園短期大学紀要』No.40, p.313-322.
- 常葉学園短期大学図書館之山文庫 (2006) “図書館利用調査集計結果報告 (抜粋)”『之山文庫だより』No.49, p.8.

附録：調査票と回答用紙 (次ページ以降)



## 図書館利用調査（2011年9月13日実施）

常葉学園短期大学附属図書館之山文庫

- ・ **本学図書館**の利用について、下記の設定に答えてください。回答は、特に指示されていない限り、選択肢中の**番号**を選んで記入してください。
- ・ 設問は、裏面にもあります。

### ○あなたの学科、学年

学科 1. 日文科 2. 英文科 3. 保育科 4. 音楽科  
学年 1. 1年 2. 2年 3. 専攻科

### Q1. 図書館を利用したことがありますか。

1. 週に2回以上
2. 週に1回程度
3. 月に1回程度
4. ほとんどない
5. ない

### Q2. 主にどのような目的で利用しますか(複数回答可)。

1. 課題や研究のための資料収集
2. 書籍・楽譜・雑誌・新聞等の閲覧や、CD・DVD等の視聴のため
3. 試験勉強
4. 空き時間の利用
5. コピー

### Q3. 蔵書について。学習・研究に必要な資料が、本学図書館に所蔵されていますか？

1. はい
2. いいえ
3. よくわからない

### Q4. 蔵書について。教養を高めるのに必要な資料が、本学図書館に所蔵されていますか？

1. はい
2. いいえ
3. よくわからない

### Q5. 下記に挙げる定義の資料のうち、本学図書館で所蔵してほしいと思うものは何ですか？(回答2つ以内)

1. 授業と関連する分野の入門用の著作・雑誌または視聴覚資料(教科書など)
2. 授業と関連する分野の研究用の著作・雑誌または視聴覚資料(専門書など)
3. 授業とは直接関連しない、一般教養を高める著作・雑誌または視聴覚資料(新書・資格検定本など)
4. 授業とは直接関連しない、別の分野の専門的著作・雑誌または視聴覚資料(学科に関係しない専門書など)
5. 上記以外

### Q6. 図書館に所蔵してほしい書籍、雑誌、CD、DVDがあつたら、具体的に書いてください。

### Q7. 資料の閲覧、貸出、コピー以外のサービスを利用したことがありますか。

1. ある
2. ない

### Q8. (Q7で1の回答をした人は)どのようなサービスを利用しましたか(複数回答可)。

1. 貸出中の資料の予約
2. 資料の購入希望(リクエスト)
3. 雑誌記事(論文)検索
4. 他の図書館からの資料の取寄せ(文献複写・資料借受)
5. 他の図書館を利用する際の紹介状の発行

裏面へ⇒

Q9. (実際に資料を探す時に)資料の配置はわかりやすいですか。

1. わかりやすい
2. わかりにくい
3. まともに探したことがないので評価できない

Q10. 次の図書館内設備・施設のうち、前期中に一度も利用したことのないものを選択して(複数回答可)、該当する番号の解答欄に○をつけてください。

1. 学習用コンピュータ
2. 目録検索用コンピュータ
3. 視聴覚機器
4. きらりルーム (2F 研修室)
5. ひだまりガーデン (南側の屋外スペース)

Q11. Q10 で回答をした場合のみ質問します。利用しない理由はなぜですか。項目毎に以下の回答から選んでお答えください。回答欄中の Q10 の番号の後に下記 a,b,c のいずれかを付すかたちをお願いします。(回答例:2/a)

- a. それがあることを知らない
- b. それがあることを知っているが、利用の仕方(手続きや利用の規則)がわからない
- c. それがあることを知っているが、興味・関心がない

以下では図書館のアメニティ(過ごしやすさ・快適さ)について質問します。

Q12. 下記のうち、普段の図書館の利用者の数に関してあてはまるものを選択してください。

1. 人が多すぎる
2. ふつう
3. 人が少なすぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)

Q13. 下記のうち、普段の図書館の静寂度に関してあてはまるものを選択してください。

1. うるさい・騒がしい
2. ふつう
3. 静かすぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)

Q14. 下記のうち、普段の図書館の照明に関してあてはまるものを選択してください。

1. 暗い
2. ふつう
3. 明るすぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)

Q15. 下記のうち、普段の図書館の机と椅子の状態に関してあてはまるものを選択してください。

1. 机・椅子の状態が悪い、または汚い
2. ふつう
3. 机・椅子の状態も心地よすぎる、綺麗すぎる(そのために集中できないなどの弊害がある)

Q16. 上記 Q12-15 で採りあげたことも含めて、普段の図書館における「過ごしやすさ」について、気になることがあれば自由に記してください。

Q17. 司書の対応について

1. 良い
2. 普通
3. 悪い

Q18. (Q17 の回答について)どんな時にそう感じましたか。また、希望・要望などがあったら、書いてください。

Q19. 全体的な希望・要望などがあったら書いてください。

ご協力ありがとうございました。

図書館利用調査(2011年9月13日実施) 回答用紙

常葉学園短期大学附属図書館之山文庫

学科					
学年					
Q1					
Q2					
Q3					
Q4					
Q5					
Q6					
Q7					
Q8					
Q9					
Q10	1/	2/	3/	4/	5/
Q11	1/	2/	3/	4/	5/
Q12					
Q13					
Q14					
Q15					
Q16					
Q17					
Q18					
Q19					